



在京関中一高会 会報

震災により被災された皆様へ、謹んでお見舞い申し上げます

ご挨拶

在京関中一高会会長 柳澤 惇 (昭和32-56回卒)



今年も母校校長先生や本部同窓会長をお迎えして当総会を開催する時節になりましたが、あるることか 先般の東日本大震災、しかも観測史上最大規模ということで本当に驚愕しました。そして津波の恐ろしさはテレビの映像を見れば恐怖以外の何ものでもありません。加えて原子力発電所の事故です。
何とも言いようがありませんが、会として心よりお見舞い申し上げます。

これを契機にして降りかかった災難に政治を始め国民一致団結して救国の精神で取り組んでほしいものです。

さて、今年の在京関中一高会総会は6月19日(日)に決まっております。皆様多数のご参加を願っておりますが、この2年120~140名から100名と参加者が少なくなっています。これには色々な理由があるとは思いますが、同総会はいくまでも各同期会のご協力が無ければ活性化も継続化もして行くことがかなり難しいと思います。

この件で副会長、幹事長や副幹事長と色々議論してきましたが、参加者が多い年次は大体決まっております、総会には余りご縁が無かった年次で同期会はしっかり開催している年次が結構あります。その人達は是非総会に参加して頂くべく強く働きかけております。一方、講演者や講演内容を工夫してはとの提案もありますが、同窓生以外でもいいのか、若向けか否か、等なかなか収斂しにくい面もあります。

ところで今年の講演者は61回卒のヤンソン柳沢由実子さんにお願いしてあります。氏は上智大学を卒業され後進国の女性解放者の顔、翻訳者の顔、スウェーデン等北欧の事情に詳しい顔、等多彩多能の持ち主であり有名な方です。盛岡支部でも講演をされております。

演題は敢えて「もっと知ってほしいスウェーデン」をお願いしています。これは正に今政府が「これからの税制と社会福祉政策」の検討を6月までに結論を出すべく鋭意検討しているからです。スウェーデンは一般的に「高負担・高福祉」と言われており税金の国民負担率は日本よりはるかに高いと思います。しかし、スウェーデンでは国民は納得しており、高負担により将来受けられる諸福祉政策は自分の「将来の財布」と考えているようです。これは国民の政府に対する絶対の信頼感があるからです。ここが日本と違うといえば違うところです。国の政治・経済・社会構造・そして人口等の規模等の違いはあるでしょうが、是非、話して頂いて彼我の違いを理解したいものです。

最後に、総会に今までご縁の無かった方達初め多数の皆様が足を運び頂きますよう役員・年次幹事一同心待ちにしております。

感謝を込めて

一関一高同窓会会長 佐藤 悦郎 (昭和21-45回卒)



東京支部の皆様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

常日頃、同窓会活動につきましてお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

去る3月11日の大災害に際しまして、ご心配を頂き有難うございました。一関市内でも、多くの方が避難され、市民の殆どが数日間、停電、断水の生活を余儀なくされました。一高校舎は、大講義室天井・外壁など、大きく剥脱落下がりましたが、教室等は使用可能です。入学式は4月15日に延期になりました。

県教委の人事異動は、付属中誕生にご尽力された副校長の北村東先生は、西和賀高校の校長に、定時制副校長の佐藤文也先生が盛岡商業高校の副校長に、同窓会名簿担当の及川研一先生が、一戸高校の副校長に昇任転勤。鈴木勝博先生が、北東北三県交流システムで、秋田県横手高校に転勤になりました。例年より小規模です。

昨年11月に東山支部会長の鈴木惣一郎先生(昭22-46回卒)が、ご逝去なされました。本年2月開催の東山支部総会で、副会長松川誠氏(昭29-53回卒・前東山町長)が、支部会長に選出されました。小生、記念講演に指名を頂き、「一高同窓会の現状と鈴木惣一郎会長を偲ぶ」の演題で、つたない話しながら任務を果たしてきました。改めて、同窓会支部発展に貢献された鈴木会長の御冥福をお祈り申し上げます。

平成21年、東京同窓会に全力支援して頂いた「市民ミュージカル」の盛岡公演は、東京・豊島公会堂盛況の余韻をそのまま盛岡に持ち込んで、本年1月16日、1,500全席指定の満員の県民会館で、熱気に溢れる公演が行われました。出演者は、正に県民に誇れる熱演で応え、観客を感動の渦に、そして絶賛の嵐の如き拍手に包まれ、大成功の裡に終了しました。盛岡支部の応援の力ここに結実。

南から北から、いつも並々ならぬ同窓会に対するご支援に心から感謝申し上げます。御挨拶といたします。

平成23年度総会・講演会・懇親会

平成23年6月19日(日) 午前10時半受付開始
東京(大塚) ホテルベルクラシック東京
講演「もっと知ってほしいスウェーデン」
講師：ヤンソン柳沢由実子氏(昭37、61回卒)

地域再生の旗頭に！

一関一高 校長 木村 毅



在京の同窓生の皆様にはお変わりありませんか。

年度末の東日本大震災で学校は様々な変更を余儀なくされ、4月に入っても昨年度の残務処理が終わらずにいる部分もありますが、卒業生が巣立ち、新入生が決まり、新しい年度に向かって着実に始動しつつあります。ただ、日々、余震が絶えることなく、時折、強い揺れが来るとあの日の感覚に戻ってしまう生徒も多いのではと思われれます。

3月11日は通常の授業中でしたが、ゴーという地響きと共に新しい校舎が轟音を立てて揺れ始め、一時、生徒は呆然として立ち尽く

してまいりましたが、すぐの放送の指示で気を取り戻し、落ち着いてグラウンドに避難することができました。校舎の破損、壁のひび割れ、備品の損壊が少なからずありましたが、幸いにも生徒達に怪我人はありませんでした。ただ、沿岸部地域の被害は、ニュースで伝えられているとおりで、大変悲惨な状況です。

あれから1ヶ月ほどが経とうとしています。校舎の破損箇所の復旧は財政的にまだ時間がかかると思われれますが授業に大きな支障はありません。ライフラインも復旧し、本校の生徒達もやっと学校での授業が再開できる状況になりました。今、こうして普通に授業を受けられることのありがたさを実感しながら日々励んでいるものと思います。

新年度は、高校と中学校を合わせた生徒数977名、教職員は非常勤を含め100名でスタートします。地域が震災から立ち上がり復興が成し遂げられる頃には、本校の生徒達がその後の地域再生の旗頭になって頑張りたいと願っております。

平成22年度在京関中一高会 総会・講演会

第1部 総会



同窓会長挨拶



母校校長挨拶



横山本部事務局長挨拶



41回（昭和17）
～55回（昭和31）

56回（昭和32）
～58回（昭和34年）



59回（昭和35）
～79回（昭和34年）



第2部 講演会

『会津藩と長州藩』

講師：星 亮一氏（昭29、53回卒）



第3部 懇親会

平成22年6月13日 ホテルベルクラシック東京



同期会ニュース

二六会（昭26—50回卒）：卒業60年、傘寿（80歳）を祝して、本年5月29日（日）、一関で同期会。サンフランシスコ在住の乗元恵三出席。

伊考会（昭30-54回卒）：平成22年6月27日、伊藤孝雄出演の劇団民芸公演「峯の雪」（新宿・紀伊国屋サザンシアター）を観劇後、新宿野村ビル地階レストランに集合。伊藤孝雄氏を囲んで、一関からも西城健夫妻、横地儀房。名古屋から菊地宏見と30余名の親睦会。神崎夫妻の名幹事で歓談。楽しい会でした。

関東地区珊瑚会（昭35-59回卒）：平成23年2月5日、代々木の新日鐵代々木倶楽部で平成23年度の総会・懇親会を開催。参加者総勢41名。当地区会員34名に、各地区から7名（熊谷秀朗（盛岡）、関末尚（仙台）の初参加組と一関、仙台からの常連組5名）がゲストとして参加。毎年のごとながら数十年ぶりの再会を喜び、また1年の息災を称えながらの楽しい会でした。
東京三九会（昭39-63回卒）：平成22年11月14日、20回目の記念同期会を、向島の料亭「櫻茶ヤ」に46名出席で開催。一関から内田正好・前母校校長夫妻、松本健樹・本部同窓会副会長も駆けつけ、清酒「不屈不撓」を飲みながらの大宴会でした。

会員トピックス

久保田武光 本会副会長（昭26-50回卒）：指揮下のボーイスカウト団員と共に、本年4月8日～11日、大船渡市・陸前高田市へ支援活動に。報道以上の被害を感じた。佐藤本部同窓会長、一関の阿部興紀氏（昭32年卒）とそのミュージカル「平泉」のスタッフの協力もあった。

千田隼生（昭32-56回卒） 劇団銅鑼俳優：平成23年2月、六本木・俳優座劇場で劇団銅鑼公演「カタクリの花の咲く頃」に、西和賀町住人・高橋留吉役で岩手県人らしい名演技。劇は、岩手県沢内村の深澤晟雄村長（大13年卒）の取り組みを紹介した「村長ありき」（及川和夫著、昭27年卒）の演劇「燃える雪」（1987年初演）の現代版。

菅原チネ子（昭32-56回卒） 劇団朋友俳優：昨年9月に、「川口松太郎選」（荻窪・朋友芸術センター）、1月に「真砂女」（六本木・俳優座劇場）に出演。「真砂女」では、鈴木真砂女役の"藤真利子の奔放な役を際立たせる"名脇役ぶり。

千葉忠夫（昭34-58回卒）：デンマーク在住。日欧文化交流学院、N. E. バックミケルソン記念財団理事長。本年3月、2冊目の著書「格差と貧困のないデンマークー世界一幸福な国のつくり」（PHP新書 720円）を出版。本年4月22日、有楽町の日本外国特派員協会で、出版記念祝賀会。

島地勝彦（昭35-59回卒）：作家、元集英社インターナショナル社長。集英社の編集者・経営者から作家に転身後、平成21年秋のデビュー作「甘い生活」（講談社）を皮切りに3作を続けて発表。平成23年に入ってから「愛すべきあつたましさ」（小

学館101新書）、「人生は冗談の連続である」（講談社）を連続上梓。これまでに著作5冊。現在は書き下ろしの執筆と連載7本を抱える売れっ子作家として活躍中。平成23年2月に「山梨文学シネマアワード2011」で『マスタークラスアワード（芸術貢献栄誉賞）』を受賞。（本アワード主催の一人として、小松澤陽一（昭44卒）参加。）5月下旬、一関に約1週間滞在する予定。

小山芳郎（昭39-63回卒）：元NHKディレクター。祝日のNHKラジオ第一放送「ラジオあさいちばん」の「祝日インタビュー」担当。各界の第一人者と軽妙なやり取りで聴衆を魅了。

宇田川（佐藤）恵利（昭52-76回卒）：オペラ歌手、ソプラノ。相変わらず若手歌劇歌手として美声を披露。昨年6月は、赤坂・紀尾井ホールで、ブッチーニのオペラ「外套／修道女アンジェリカ」で修道女ジェノヴィエツァを熱演。本年2月は、瑞穂の会で熱唱。本年6月27日（月）は、オペラ「ノルマ」にてクロティルデ役で出演予定。（紀尾井ホール）

小野正弘（昭52-76回卒）：明治大学文学部教授。三省堂出版「現代新国語辞典」第4版の編集に参加した。専門は国語史で、著書に「オノマトペがあるから日本語は楽しいー擬音語・擬態語の豊かな世界」（平凡社新書）など。ご一読をどうぞ。

中田江利（平5-92回卒）：なかだえり イラストレーター、建築設計者。同窓の作家、島地勝彦氏（昭35-59回卒）の「甘い生活」（前出）の装丁や「グラマラスおやじの人生智」（東スポのコラム）のイラストを担当。1999年から東京・北千住の築約190年の「蔵」をアトリエとし、年に1度この蔵を会場に個展を開催。今年は、5月28～6月4日の日程で開催予定。内容、会場案内等、詳しくは：<http://www003.upp.so-net.ne.jp/nakada/>

クラブOB会ニュース

在京関東野球部OB会・平成22年度総会：昨年11月3日、東銀座に、一関から三浦栄蔵会長（昭31-55回卒）、小嶋甲子雄（昭18-41回卒）、鈴木浩監督（平1年-88回卒）を迎え、在京会員21名を加え開催。懇親会は、学生会員を含め全員スピーチで始まり、大いに楽しみました。

母校野球部応援・激励の会：OBの佐々木徳郎（昭34-58回卒）の発案で、昭32年卒～35年卒の12名が、昨年12月、築地に集まり忘年会。席上、「母校公硬式野球部への提言」が提起され、本年3月、母校、校長、野球部長、監督宛送付した。人間力、総合力を磨いて、野球（甲子園）忘れず、行動できる野球部員になって欲しい、という主旨。

母校野球部員の奉仕活動：金野部長（3年）以下、野球部員は、一

関の特別養護老人ホーム明生園で奉仕活動に取り組んだ。同園には、東日本大震災で被災した沿岸部の老人10名余がおり、介護者が不足している。部員は、3月30日から春休みを利用して応援している。

神宮球場で大学野球が始まる：東京六大学には明治大・阿部寿樹（遊撃手）、東都リーグ戦では青山学院大・新沼悠太（投手）が出場。二人とも大学4年生として最後の活躍、集大成の場である。

夏の大会に期待：夏の大会は7月14日開始。24日が決勝戦の予定。

巨人軍 木村投手近況：木村投手は15番の背番号を与えられながら、2010春キャンプに臨みましたが、右ヒジ関節炎を発症し治療に専念した。秋に育成選手として契約し、今シーズンは二軍スタートとなり6月下旬までに70名の支配下選手になれるか正念場を迎えた。4月10日現在、5試合に登板、今一つの感。

事務局便り

●母校へ義援金を送ろう：東日本大震災で母校校舎、関係者も少なからず被災しています。義援金を寄付します。総会出席者は当日カンパにご協力ください。総会に出席できない方は、郵便振込用紙（総会案内に同封）でどうぞ。口座名は、「在京関中一高会」、口座番号は、「00100-8-0604479」です。よろしく。

●事務局の住所が変わります。：本会事務局をお願いしている黒澤合同事務所が新しい事務所に移転します。5月16日以降の住所は、下記
〒164-0001 中野区中野4丁目4-11 第12南日本ビル内

●ホームページに緊急掲示板開設：地震直後に、当会HPに開設。初めは、会員の安否確認、被害の状況について書き込みあり。その後、支援方法、復興援助等。この間のアクセス数は平常時の3倍強にも。母校のHPとリンクしてのアクセスも多数あり、多方面からの情報収集が行われたことを窺わせる。

インターネット利用会員の活用をお願いします。在京関中一高会のホームページアドレスは、<http://www.ichinoseki-1.com/>

●編集後記：会報発行の準備を進めていましたが、地震、津波、原発事故、通信・交通手段、余震と、次々と環境が変わりつつあります。ご協力を頂いた役員、幹事、有志会員の方々のご尽力で、どうやら会報を発行できます。被災された会員の方に、謹んでお見舞いを申し上げます。

【岩手県人連合会ニュース】

平成23年度岩手県人連合会（第37回「岩手県人の集い」）

平成23年6月5日（日）午前10時受付開始。午前11時より午後2時半まで。会場は、JR日暮里駅南口すぐ、ホテルラングウッド。大地震の早期復旧支援対策、新役員選出等が議題。

参加費 1名 6,000円。参加希望者は、在京関中一高会事務局まで。案内、出欠はがき、振込用紙送付。岩手県人連合会ホームページ参照。
<http://www.rengokai-iwate.jp> （幹事長 清野 翼）